

階上町の合併問題での住民投票にむけてのとりくみ

八戸商業高校教諭 寅谷 正

2003年2月9日に階上町で青森県内初の住民投票が行われましたが、それにむけてのとりくみの経過を、寅谷氏のレポートから抜粋して掲載します。

①H13. 7. 26

八戸市・階上町・福地村・南郷村の4市町村で「任意の協議会」を設置。

(名称:「八戸市・階上町・福地村・南郷村合併検討協議会」)

②I0. 17~31

住民アンケート調査実施(階上町分の回答状況) 対象者 2665人, 回答者 776人, 回収率 29.1%。

※ 階上町では県内初の住民発議が町内活性化グループ「21はしかみんぐ」(代表: (有)青森熱研工業社長伊藤武男)メンバー有志によって結成され, 2001年10月13日~11月13日の一ヶ月間, 「合併協議会設置のための署名運動」を行い, 1780筆(50分の1以上の基準を突破)の署名を集め, 前階上町長正部家祐介に提出し, 話題を集めた。

合併協議会は町議会の議決で1票差で否決になった。その後2002年12月, この「市町村合併」を争点に首長選挙がたたかわれ, 推進派がやぶれ慎重派の現上山町長が誕生した。しかし現町長も「市町村合併」につい

ての住民との懇談会は各地区1回だけで, 八戸商工会議所が設定した各自治体5名からなる合併検討委員会?での会議で検討しているだけの模様で, 住民不在の論議の感を否めない。

③H14. 4. 1

名川町・南部町・田子町が合併検討協議会に加入。(名称を「八戸地域合併検討協議会」に変更)

④5. 13~24

地区協議会を9会場(19行政区を対象)で開催。265人参加。

⑤6. 5

住民懇話会(「地域将来構想策定委員会」主催)→ハートフルプラザ階上(全町を対象) 103人参加。

※10.9 市町村合併策定委員による最終報告書の検討会議(八戸市)

⑥I0. 21

第7回八戸地域合併検討協議会(・地域将来構想の決定, ・事務事業調整の決定)

⑦I1. 21~29

市町村合併についての地域将来構想住民説明会。各家庭に配布した「概要版」を持参すること。

9会場(19行政区を対象)で開催。新田集会所(角柄折・鳥谷部), 金山沢福祉館(金山沢), ハートフルプラザ階上(赤保内・耳ヶ吠東), 蒼前集会所(石鉢・蒼前・野場中), 田代福祉館(田代), 登切福祉館(晴山沢・平内), 老人憩いの家(荒谷・大蛇・追越), 道仏公民館(榊・駅前・道仏), 潮風荘(小舟渡)。全体で199人参加。

⑧I1. 25

階上町議会が「階上町が八戸市・福地村・

南郷村・名川町・南部町・田子町と合併することの賛否を住民投票に付するための条例」を可決。

⑨H15. 1. 12~19

市町村合併住民説明会

「合併した場合と合併しない場合」との比較説明。

「住民投票」の説明。

1.12 階上町役場1階休憩コーナーに集まり, 合併反対集会について協議。

説明者: 寅谷。

2.2 (日) 17:00から行う。

講師は寅谷に任せる。

①合併しないほうがよいことをきちっとしゃべる講師であること。

②合併で失敗した全国の事例をきちっとしゃべれる講師であること。

③新聞折り込みをやる。

④チラシの2億円赤字は誤り, 2億円減が正しい表現。

1.17 市町村合併住民説明会, 道仏公民館(榊・駅前・道仏)。

⑩2. 2, 13:00~16:15

伊藤氏ら(合併賛成派)主催のフォーラム。参加者 約60人。

⑪2. 2, 17:30~21:00

階上町の合併反対学集会。演題:「合併の問題をえぐる」

講師: 中西啓之(前自治体問題研究所事務局長, 現都留文科大学教授)。参加者 約150人。

⑫2. 2~2. 8

階上町の市町村合併に関する住民投票の不在者投票期間。

⑬2. 9 (日) 7:00~20:00

階上町の市町村合併に関する住民投票(町内12ヶ所)

賛成: 反対=53%: 47%

6%=386票=48軒と1票

⑭3. 7

階上町議会は, 法定協議会に加入するかどうかの議会18人満場一致で参加を決定。前日までは2人程反対行動をとるやに聞いていたが, 所詮, 全員保守の議員であることの悲哀である。

⑮4. 22 町議会議員選挙の告示日であったが, 18人ちょうどの立候補ということで, 無投票での当選となった。ただし合併反対派: 合併賛成派の勢力図が10:8から12:6と変わり, かなり議会的にはリベンジを図るには有利な方向になった。

町から, ベッドが消されてゆく

西北中央病院労組執行委員長

内山 宏

1. 自治体病院とは何なのか

小泉内閣の構造改革は政治家, 官僚の改革はちっとも進まないが, 「国民いじめの改革」は寄せる波のごとく, 次から次へと押し寄せてきている。

小泉総理は医療にも深いメスを入れてきた。この4月からは健保3割負担も始まった。この経済不況で失業者があふれている中でこの改悪は, まさに金のないものは死ねというのと同じだ。

そんな中で, 自治体病院合理化が始まって

2003年5月26日 第13号

【事務局】弘前大学農学部生命科学部 神田健策

〒036-8561 弘前市文京町3 TEL 0172-39-3828

自治研

最近思うこと

副理事長 木村 繁高

情勢の変化が著しく、その対応に四苦八苦する毎日が続くもとで、今年4月から事情があつて労働組合の専従を休むことにしました。

職場に復帰して、久々に自治体職場の雰囲気浸って間もなく2ヶ月になりますが、職場では、施設の老朽化が進み、すべての施設が修繕の対象であり、いつ機能が停止してもおかしくないものばかりです。自治体の仕事は、ゆりかごから墓場までそこに住む住民の命と暮らしに係り、民間では採算の取れない業務が主体となっています。ところが、自治体労働者の賃金が高すぎるという口実で、民間委託や民営化がすすめられ、現業職場がその標的にされてきました。清掃業務がすでに民営化され、そこで働く労働者は公務員労働者の2分の1から3分の1の低賃金で働かされています。学校給食センターでは栄養士と若干の事務職員以外はパート調理員従事し、ここも経費の節減が押し付けられています。同時に、自治体の運営費を削減させるために、町村合併を強力に進められています。

今、この「市町村合併推進に協力した」某県の某市では合併した結果、中心となった町を中心に開発や整備に予算がつかぎ込まれ、職員の給料は低くされ、議員の歳費も同様にされるなど、たくさんの矛盾点が明らかになってきています。

また、今国会で「独立行政法人化法案」が提案されて成立がたくらまれています。この法案が目指すところは、採算の取れない行政部門を廃棄するというもので、そこで働く公務員も民間労働者にされ、労働法制の改悪ともセットでいつでも生首を切れる状況をつくり出すというものです。

戦争を永久に放棄したわが国が、教育基本法を改悪し、有事法制を成立させ、個人情報保護法を骨抜きにするなど、日本という国をどこへ導こうとしているのか、非常に疑問を持つとともに、こうした情勢をすべての国民が真剣に受け止め、何らかの意思表示をすべきではないのでしょうか。

いる。青森県内には30市町村立病院、つまり自治体病院がある。多くの病院は日本が高度成長時代に向かう昭和30年代に建てられている。

たび重なる医療費制御政策、自治体の財政悪化等を背景に自治体病院は赤字経営のレッテルを貼られてしまった。

「自治体病院運営からは早く撤退したい。町の一般会計からの繰入金が無大で新事業が出来ない」「村立の診療所なんてとんでもない。なくなつて隣に立派な中央病院があるじゃないか」……。一政敵がいけないことをいいことに、こんな次元の低い発言を公言している町長、村長がいるのだから全く情けない。

健康な町民だからこそ新しい会館、新しい道路を走れるのである。村民が利用している隣の市立病院は、その市だけの財源で奮闘しているのである。

地域住民の命と健康を最重要課題として考えない首長、そしてその自治体に未来はないとしか言わざるを得ないのである。

2. 自治体病院の合理化

さて、「青森県自治体病院機能再編成指針」が示されたが、なかなか進まないため平成13年12月に県庁内に同再編成推進チームが結成された。

そのチームが作ったプランは、再編成（合理化）することにより赤字を減らし、医師不足を解消するという目的なのだが、その青写真は相当乱暴だ。

例えば、西北五圏域では五所川原市立西北中央病院を高度医療に対応する中核病院（580床、建設費250億）とし、隣接する木造

町立成人病センター（112床）、鶴田町立病院（130床）をベッドのない診療所にしてしまおうというプランだ。

道路事情が発達したのだから五所川原市へは車ですぐ行けるというのが県や両市の考えだ。運転免許のないお年寄り、車のない家庭はどうするのだろう。外来、入院、また見舞いだってわざわざ車を走らせなくてはならなくなる。

両町から病院が消えれば、それに伴って近辺の商業も疲弊し、住民が流出し、過疎化が急速に進むのは間違いない。

3. 誰のための自治体病院なのか

医療過疎は地域住民への重大な影響があると考えた私たちは2月26日（水）に「地域医療の充実を考える学習会」（講演：山形県医療問題研究所長・菊地敏彦氏）を開催した。当日は五所川原市はもとより木造町、鶴田町を初めとしその他の市町村から70名の参加があつた。

菊地氏の講演によると、機能再編成をやっても経営改善どころかかえって赤字が膨らみ、医師確保もままならないというのである。山形県で既に実施された同様の厚生省（当時）プランで見事に躓いたという驚くべき報告がされたのである。

今こそ、私たち自治体病院で働く職員、そして地域住民は熟考しなければならないときがきた。誰のための自治体病院なのかと。

私たちは今後とも、木造町、鶴田町、そして金木町、鱈ヶ沢町でも学習会を開催し、みんなで考えてみたいと思っている。なによりも地域医療を確保するために。